

なかつか 亮

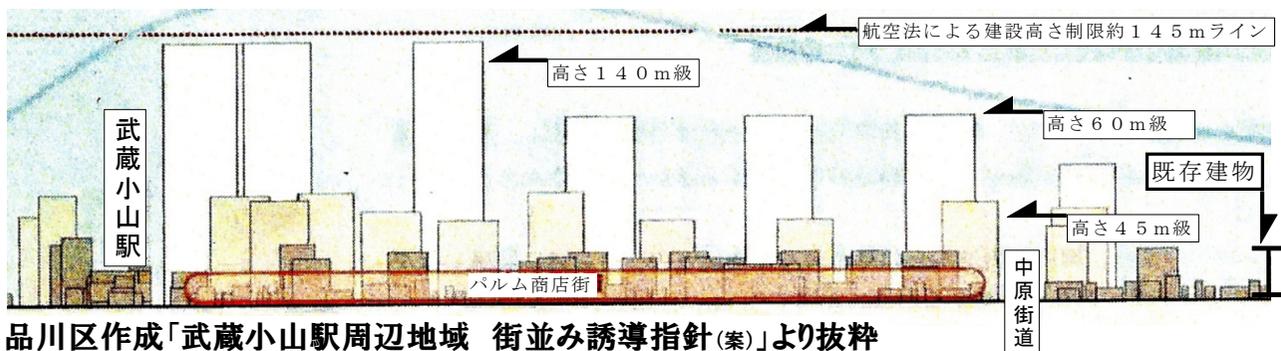


大崎・大井町・五反田
につづき、今度は…

武蔵小山に

巨大ビル19棟乱立

140m級3棟、60m級3棟、45m級13棟 —区が誘導—



品川区作成「武蔵小山駅周辺地域 街並み誘導指針(案)」より抜粋

品川区議会・建設委員会が1月23日に開催。委員会で区は「武蔵小山駅周辺地域 街並み誘導指針(案)」を発表し、「荏原地区のランドマーク」として巨大ビル19棟を建設・誘導する計画が示されました。

共産党は「高層ビル群とは、区民が望む武蔵小山の姿ではない。抜本的に見直しを」と述べました。

航空法ギリギリ

昨年12月に、区は「品川区の西の玄関口にふさわしいまちづくり」という、まちづくり方針を策定。この方針を受け武蔵小山駅周辺の街並み形成に向けた基本方針が、今回の「誘導指針」です。

区が目指す武蔵小山とはどんな姿か。この「誘導指針」には「武蔵小山駅前において複数の高層建

築物群を建設し、品川区の西の玄関口にふさわしい新たなスカイラインを形成。荏原のランドマークとして機能する形態に誘導する」とする考えが示され「街並みイメージ図」として、上の資料が提出されました。

ズバリ、航空法ギリギリの高さ140mビル3棟を含む19棟の建設を進める計画です。

裏へ

この計画について、私（なかつか亮）は、「なぜ武蔵小山が高層ビルなのか。この計画が武蔵小山らしいとは間違っている。住民要望を汲み取った計画なのか」と質問すると、区は「住民要望を汲み取り進めてきた」と答弁しました。

区民が望む

武蔵小山の姿とは

“むさこ”の愛称で若者にも親しまれる武蔵小山。この愛称には商店街が連なる庶民的な街への強い愛着が込められています。

計画策定に向け、区は2007年に住民アンケートを実施。その結果は「将来希望する街のイメージ」

の質問で、「人々の触れ合いを大切にす

る庶民の街」との回答が44%を占め、ダントツ第1位。ちなみに「洗練された都会的なまち」は5.6%と最下位でした。
多くの区民が望む武蔵小山の姿とは19棟の巨大ビルの街ではありません。規制緩和と税金投入で進める大型公共事業の見直しを求めました。
はたして高層ビルに人は集まるのか
このビルが「オフィスビルなのか」「マンションなのか」「駅前商業施設のテナントには何が入るのか」は未定ですが、どちらにしる巨大ビルを建設したところで、本当に人が集ま

るのか疑問。商店街への影響も心配です。

長引く不景気のなか「マンション販売が飽和状態」「オフィスビル過剰」の報道もしばしば。3・11大震災を受け、高層ビルの長周期地震動が指摘。高層ビルは安全性と共に消費者ニーズも変わっています。また「2020年をピークに人口は減少」「民間住宅の空家が区内で2万戸」という区の調査もあります。この状況で巨大ビルへの需要が果たして、どこまであるのでしょうか。「ハコモノを作れば人が集まる」とは……。やっぱり、この計画は見直すべきです。なかつか亮

品川区

放射能ホットスポット測定結果が公表へ

同じく1月23日建設委員会にて、品川区が昨年9月末から実施してきた1141箇所の放射能ホットスポット測定（小中学校、幼稚園、保育園、公園など）について全結果を公表した事が報告されました。結果は区ホームページをご覧ください。

区は、当初、「ホットスポット探しのような測定は風評被害を広げるのでやらない（昨年9月本会議にて）」と測定実施を求める共産党の質問に、このように答弁。しかし、測定を求める保護者らの強い要望と共産党の取り組みが力になり、ホットスポットになりやすい場所の測定実施が実現しました。これを受け共産党は「全ての結果についてすみやかな公表を」と求めたところ、区は「余分な混乱を起こしたくない。公表の方法については現在、議論中（昨年11月建設委員会にて）」と渋っていましたが、このほど全ての測定結果の公表が実現しました。共産党は、さらに放射能測定器の区民貸出や子どもの内部被曝対策などの実施を求めています。

次回の『気軽な町の無料法律相談会』のお知らせ

2月17日(金) 午後6時～8時 場所：日本共産党なかつか亮事務所
弁護士と一緒に相談会を行います。生活のこと法律のこと、お気軽にご相談ください
連絡先 昼：区議控室 5742-6818 夜：事務所 3773-3231